

1 事業総括

平成27年度の通所事業の月平均利用実績は24.3人であったため、実態に即し平成28年度は通所事業の定員を40人から30人に変更した。平成28年度の利用実績は下表のとおり、通所事業開始者は16人、訪問事業開始者は2人であった。通所事業開始者は更生施設退所者だけでなく、地域枠として2人の受入を行った。一方で終了者は通所事業18人、訪問事業2人であった。

経営面においては、通所事業は月平均25.5人で事務費収入は微増となった。通所事業終了者がOB支援事業に移行した方もおり、現在11人が登録し、引き続き施設を利用することで施設の地域貢献に寄与している。

利用者の支援においては、精神障害や知的障害、発達障害等の利用者が多く、服薬管理や関係機関との連携を行い、地域生活が安定するように取り組んだ。所内作業も安定して運営することができた。

	定員		28年度実績 新規開始数(対定員利用率)						27年度実績 新規開始数(対定員利用率)				
	通所	訪問	16人(53.3%)						19人(47.5%)				
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
通所	26	24	24	27	27	26	25	27	26	24	24	26	25.5
訪問	4	3	3	3	3	2	3	3	3	4	4	4	3.2

2 主要目標に対する成果

(1) 通所事業による居宅での地域生活安定に向けた支援

通過型の通所事業として機能するため、いずれ通所事業を終了しても地域生活を安定的に送れるように、施設全体でその支援のあり方を検討した。

(2) 更生施設機能を活用したサービスの提供

入浴サービスや食事サービス等において、更生施設機能を最大限活用した。また、夏祭りやもちつき大会等の行事においては、更生施設と合同して開催した。

(3) 支援プログラムの充実と地域社会資源等との交流促進

精神障害や知的障害、発達障害等で既存の施策に乗りにくい利用者を積極的に受け入れた。支援のあり方について地域社会資源等との連携を図った。

(4) 所内作業、中間就労の推進

施設共用部分の清掃作業及びリボン縛りの内職作業を安定的に実施した。

3 運営管理

- ・行事について事業計画どおりの内容・回数を着実に実施した。
- ・行事の実施にあたっては、可能な限り準備の段階から片づけに至るまで利用者にも参加してもらった。行事内容については、懇談会等で利用者から意見聴取を行い、希望を反映した。
- ・利用者同士の交流の促進を図るような、バーベキュー大会などの行事を実施した。
- ・清掃作業や所内作業は、利用者自身が主体的に参加できるような運営を心掛けた。
- ・精神状態の悪化や体調不良等に陥った場合には、迅速に緊急訪問や緊急宿泊を実施した。
- ・社会復帰促進事業は近隣の宿泊所利用者を中心に利用し、支援の難しい利用者についても、宿泊所職員等と連携して支援を行い、アパート生活訓練を実施した。
- ・ゴールデンウィークや年末年始などの、少ない職員体制であっても、安否確認を確実に実施した。
- ・利用者の緊急時の安否確認を目的として、利用者の同意があれば、アパートの合鍵の預かりを実施した。

